

市民意見交換会にかかる意見・質問及び回答(令和5年4月末時点)

委員会名:厚生常任委員会

番号	委員会等で整理した市民からの意見・質問等	意見・質問等への対応(執行部からの回答内容を含む)
1	<p>新型コロナウイルス感染症に関する取組や陽性者数、ワクチン接種等の情報を引き続き詳細に市民へ公開してほしい。</p> <p>また、今後、心配される第8波以降の新型コロナウイルス感染症対策について、どのような対応を考えているのか聞きたい。</p>	<p>担当部局(福祉保健部)から、「本市では、新型コロナウイルス感染症に関する感染予防や受診に関する情報とともに新規感染者数や感染者数累計、年代別感染者数のほか、抗原検査センターの利用状況や小中学校の学級閉鎖数、幼児教育・保育施設の臨時休園数等について、最新の情報を日々ホームページにより公表している。また、ワクチン接種についても、接種対象者や接種券の発送時期等、ホームページによりお知らせするとともに、接種対象者へ接種券を送付する際には、医療機関一覧表とともに接種の有効性や安全性、健康被害の救済制度等について記載したお知らせ表等を同封し送付しているところであり、今後も引き続き詳細な情報をお知らせするよう努めてまいります。第8波においては、感染力の強いオミクロン株の感染急拡大により、自宅療養者が著増し、また多くの医療機関や高齢者施設等において、クラスターが発生した。こうした中、本市では、高齢者施設や障がい者施設の従事者に対して、感染症予防研修会の実施やクラスターが発生した医療機関や施設等に対し、保健師が現地を訪問し、施設に応じた感染拡大防止の指導を行ってきたところである。第8波の感染状況を踏まえ、平時からの感染対策が大事であると再認識したところであり、陽性者数が減少傾向となっている現在も、平時からの体制整備及び陽性者発生時に早期に対応できるよう、施設等への訪問指導を行い、啓発に努めているところである。令和5年5月8日から、感染症法上の位置付けが5類感染症に移行されることに伴い、医療提供体制等が見直されることから、今後も国の動向を注視するとともに県や大分市連合医師会と連携を図りながら、市民の皆様が安心して受診や療養を行える体制を構築していく。」との回答がありました。</p> <p>本委員会としても、引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染予防や受診に関する詳細な情報の周知が図られるよう働きかけていきます。</p>

市民意見交換会にかかる意見・質問及び回答(令和5年4月末時点)

委員会名:厚生常任委員会

番号	委員会等で整理した市民からの意見・質問等	意見・質問等への対応(執行部からの回答内容を含む)
2	<p>災害時の避難所における、身寄りがなく要介護状態の高齢者の受入体制や支援をどのように考えているのか見解を聞きたい。</p> <p>また、避難の際にマット等の避難用具を持参するのは、緊急時では難しいため、市であらかじめ準備等の対応をしてほしい。</p>	<p>担当部局(福祉保健部)から、「本市では、指定避難所において、配慮が必要な高齢者などが避難してきた場合に、トイレや出入り口に近いスペースなど、避難生活を送る上で多少なりとも過ごしやすい場所を確保し、状況に応じて案内することとしている。また、体育館等での避難生活を送ることが困難な要配慮者のための二次避難所として、高齢者施設や障がい者施設、特別支援学校などの社会福祉施設と福祉避難所の協定を結んでおり、その開設については、台風の接近や豪雨などが予想される時点で、開設が可能な施設に協力をお願いしている。指定避難所には、アルミブランケットとアルミマットを配置し、希望される方にはそれらの貸与を行っているが、数に限りがあることから、避難所へ避難される場合は、座布団等必要なものはお持ちになって避難していただくよう市報等でお願いしているところである。」との回答がありました。</p> <p>本委員会としても、市民の状況に応じて適切に避難ができるよう、今後も避難所の環境向上を求めています。</p>
3	<p>各地域での地域猫活動をより推進するとともに、地域猫活動における不妊去勢手術への助成金の増額を検討してほしい。</p>	<p>担当部局(福祉保健部)から、「本市では、地域猫活動の支援として、地域猫の不妊去勢手術費用の半額(上限メス1万円、オス5千円)を助成している。令和2年より県がさくら猫プロジェクトを実施しており、無料で手術できることから、本市もこの取組に協力している。しかし、県は本プロジェクトを期間限定と考えているとのことである。本市は、本プロジェクトが廃止、変更された場合でも地域猫活動を推進していく必要があると考えていることから、今後、不妊去勢手術助成金の増額等について検討していく。」との回答がありました。</p> <p>本委員会としても、地域猫活動を推進していく必要があると考えていることから、今後の取組を注視していきます。</p>

市民意見交換会にかかる意見・質問及び回答(令和5年4月末時点)

委員会名:厚生常任委員会

番号	委員会等で整理した市民からの意見・質問等	意見・質問等への対応(執行部からの回答内容を含む)
4	<p>少子化への対策については、子育てにかかる経済的負担の軽減や男性の子育て参加への支援など、子育て環境の充実を図る必要があると考えるが、見解を聞きたい。</p>	<p>担当部局(子どもすこやか部)から、「本市では、『すべての子どもがすこやかに育つことができる大分市』を目指し、『すくすく大分っ子プラン』に基づき、各種子育て支援施策に積極的に取り組んでいる。まず、子育ての経済的な負担軽減に係る取組として、令和4年度より『すくすく大分っ子応援事業』を開始し、4月1日以降の出生児一人につき5万円を給付するとともに、令和4年10月診療分より、市町村民税課税世帯の小・中学生の通院・歯科、調剤に係る医療費を助成対象に加えている。また、男性のより一層の育児参加を促す取組として、父親を対象とした子育て教室を実施しているほか、令和4年10月より、お父さんお母さんに関わらず誰でも参加でき、初めての子育てに関する不安などを保育士や保健師に相談できるオンライン子育て講座『わくわく子育てひろば』も開催している。今後もこうした取組を更に充実させることで、安心して子供を生み育てることができる社会の構築に努めていく。」との回答がありました。</p> <p>本委員会としても、子育てに関する各種施策の取組に注視するとともに、今後も引き続き、子育て環境が充実するよう働きかけていきます。</p>
5	<p>子供食堂の食料調達に対する支援について、産直野菜の売れ残りの活用なども含めて検討できないか見解を聞きたい。</p>	<p>担当部局(子どもすこやか部)に確認し、「売れ残りの産直野菜は消費できる期限が迫っており、時間的余裕がないものと思われるが、ほとんどの子供食堂は月に1~2回程度の開催であり、不足している食材も一定ではない中で適時にその野菜を必要とする子供食堂を探すことは容易ではない。そのため、売れ残りの産直野菜を一括してお預かりし無償配布する制度を作ることは困難であると考えますが、例えば、野菜の販売者が近隣の子供食堂へ個別に連絡して、直接引き渡していただくのであれば、申し出により市内の子供食堂の連絡先一覧をお渡しすることは可能であると考えます。」との回答を受けました。</p>

市民意見交換会にかかる意見・質問及び回答(令和5年4月末時点)

委員会名:厚生常任委員会

番号	委員会等で整理した市民からの意見・質問等	意見・質問等への対応(執行部からの回答内容を含む)
6	<p>ヤングケアラーについては、認知件数が増えてきていると思うが、今後の対応策をどのように考えているのか聞きたい。</p>	<p>担当部局(子どもすこやか部)から、「本市では、現在、ヤングケアラーと思われる子供のいる家庭を発見した場合には、『大分市要保護児童対策地域協議会』において把握し、関係機関が連携するなかで必要な支援を行っている。令和3年10月に大分県が実施した「ヤングケアラー実態調査」では、7割を超える子どもが「ヤングケアラーを聞いたことがない」と答えており、子供自身にヤングケアラーを知ってもらうために、令和4年7月に、市内の小学5年生から高校生を対象に『ヤングケアラーってなに?』のチラシを学校を通じて配布した。また、令和4年10月からは、ヤングケアラー等のいる家庭にヘルパーを派遣し家事・育児を支援することで家庭における養育環境を整え、日常生活を営むことに支障が生じている子供を支援する『大分市子育て世帯・ヤングケアラー等訪問支援事業』を開始した。このほか、子ども家庭支援センターの職員が小学校に直接出向き、教員を対象に、ヤングケアラーや児童虐待の早期発見・通告と、その後のフォローアップも含めた研修を令和4年度より開始した。今後も、ヤングケアラーについては、子供自身や周囲の大人が子ども家庭支援センターなどの相談機関へつながることができるよう周知啓発に取り組むとともに、関係機関と連携し支援を行ってまいりたいと考えている。」との回答がありました。</p> <p>本委員会としても、ヤングケアラー支援は重要であることから、十分な支援を行うよう求めています。</p>